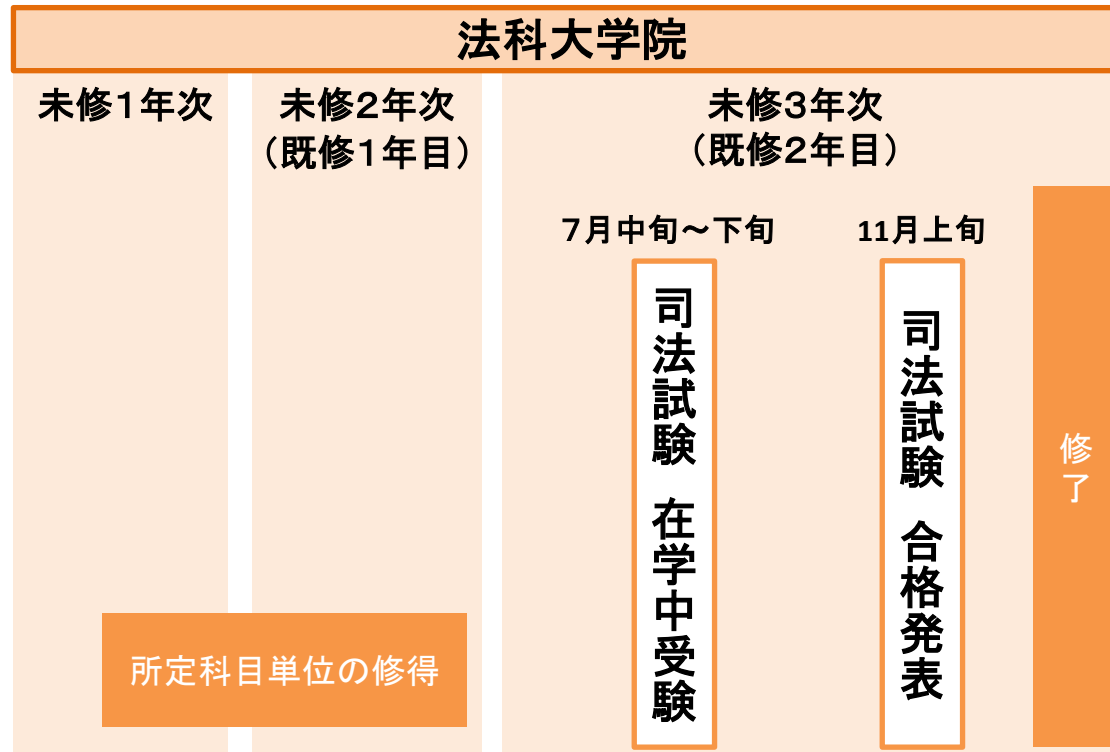


司法試験の在学中受験に向けた 教育課程の工夫等に関する調査

集計対象 : 令和5年4月1日時点で学生を募集している法科大学院を持つ大学（34校）

調査基準日 : 令和5年4月1日

司法試験在学中受験に関して



■在学中受験資格（司法試験法第4条第2項）

- 法科大学院の課程に在学
- 以下の2点につき、法科大学院を設置する大学の学長が認定
 - ①法務省令で定める所定科目単位を修得していること
 - ②1年以内に当該法科大学院の課程を修了する見込みがあること

【所定科目単位について】

○法律基本科目 ※憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法及び刑事訴訟法に関する分野の科目

- 〔基礎科目：主に未修1年次で学修するもの（法学既修者認定の対象） 30単位以上
- 〔応用科目：主に未修2年次（既修1年目）以降に学修するもの 18単位以上

○倒産法・租税法・経済法・知的財産法・労働法・環境法・国際関係法（公法系）・国際関係法（私法系） 4単位以上

-
1. **令和5年司法試験の在学中受験資格に基づく出願者数等について**
 2. **カリキュラム編成方針について**
 3. **修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について**
 4. **在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について**
-

1. 令和5年司法試験の在学中受験資格 に基づく出願者数等について

1. 令和5年司法試験の在学中受験資格に基づく出願者数等について①

大学名	令和5年度最終年次在籍者数(人)【A】		令和5年司法試験の 在学中受験資格に基づく出願者数(人)【B】			最終年次在籍者に占める 在学中受験資格に基づく出願者の割合【B/A】			
		既修者数	未修者数		既修者数	未修者数		既修者	未修者
1.北海道大学	40	26	14	29	20	9	72.5%	76.9%	64.3%
2.東北大学	44	40	4	24	23	1	54.6%	57.5%	25.0%
3.筑波大学	45	9	36	10	4	6	22.2%	44.4%	16.7%
4.千葉大学	23	15	8	5	3	2	21.7%	20.0%	25.0%
5.東京大学	189	142	47	155	125	30	82.0%	88.0%	63.8%
6.一橋大学	86	69	17	82	69	13	95.4%	100.0%	76.5%
7.金沢大学	8	5	3	1	1	0	12.5%	20.0%	0.0%
8.名古屋大学	44	37	7	33	28	5	75.0%	75.7%	71.4%
9.京都大学	154	120	34	128	111	17	83.1%	92.5%	50.0%
10.大阪大学	82	70	12	54	48	6	65.9%	68.6%	50.0%
11.神戸大学	68	60	8	50	44	6	73.5%	73.3%	75.0%
12.岡山大学	17	9	8	10	7	3	58.8%	77.8%	37.5%
13.広島大学	24	11	13	6	2	4	25.0%	18.2%	30.8%
14.九州大学	31	24	7	24	17	7	77.4%	70.8%	100.0%
15.琉球大学	13	4	9	4	3	1	30.8%	75.0%	11.1%
16.東京都立大学	24	23	1	20	20	0	83.3%	87.0%	0.0%
17.大阪公立大学	16	8	8	8	4	4	50.0%	50.0%	50.0%

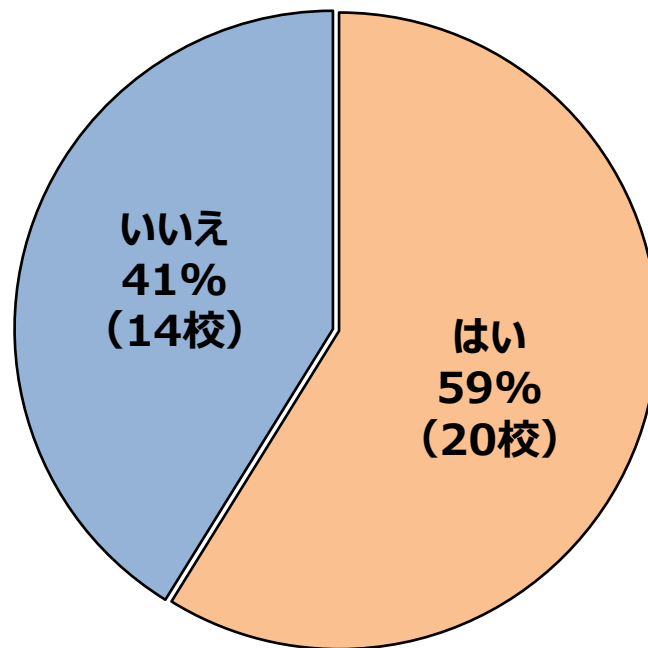
1. 令和5年司法試験の在学中受験資格に基づく出願者数等について②

大学名	令和5年度最終年次在籍者数(人)【A】		令和5年司法試験の 在学中受験資格に基づく出願者数(人)【B】			最終年次在籍者に占める 在学中受験資格に基づく出願者の割合【B/A】			
	既修者数	未修者数	既修者数	未修者数		既修者	未修者		
18.学習院大学	14	10	4	8	7	1	57.1%	70.0%	25.0%
19.慶應義塾大学	145	130	15	133	119	14	91.7%	91.5%	93.3%
20.上智大学	18	10	8	10	8	2	55.6%	80.0%	25.0%
21.専修大学	14	9	5	7	5	2	50.0%	55.6%	40.0%
22.創価大学	12	8	4	11	7	4	91.7%	87.5%	100.0%
23.中央大学	88	80	8	77	72	5	87.5%	90.0%	62.5%
24.日本大学	37	28	9	26	20	6	70.3%	71.4%	66.7%
25.法政大学	28	22	6	8	6	2	28.6%	27.3%	33.3%
26.明治大学	48	40	8	19	19	0	39.6%	47.5%	0.0%
27.早稲田大学	178	156	22	150	134	16	84.3%	85.9%	72.7%
28.愛知大学	8	2	6	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
29.南山大学	4	2	2	1	1	0	25.0%	50.0%	0.0%
30.同志社大学	56	49	7	23	21	2	41.1%	42.9%	28.6%
31.立命館大学	50	43	7	16	13	3	32.0%	30.2%	42.9%
32.関西大学	30	24	6	6	4	2	20.0%	16.7%	33.3%
33.関西学院大学	24	14	10	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
34.福岡大学	10	0	10	2	0	2	20.0%	-	20.0%
計	1,672	1,299	373	1,140	965	175	68.2%	74.3%	46.9%

2. カリキュラム編成方針について

2. カリキュラム編成方針について

(1-1) 令和5年度入学カリキュラム（令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用）において、在学中受験に必要な所定科目単位（合計52単位以上）は、2年次後期までに必修又は選択必修で履修することとしていますか。



「いいえ」と回答した大学（14校）のうち

○在学中受験希望者に対して2年次までに所定科目単位を履修するよう指導する（13校）

（指導方法の内訳）

- ・シラバスや募集要領などで記載し、かつ、個別に該当学生に指導する（6校）
- ・シラバスや募集要領などで記載する（5校）
- ・個別に該当学生に指導する（2校）

○特になにもしない（1校）

3. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

3. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

(1) 修了要件単位数、各科目群の最低限必要な修得単位数①

在学中受験対応前 (R2) : 「令和2年度入学カリキュラム (令和2年度入学の未修者、令和3年度入学の既修者に適用)」

在学中受験対応後 (R5) : 「令和5年度入学カリキュラム (令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用)」

大学名	修了要件		各科目群											
			計		法律基本科目 (基礎)		法律基本科目 (応用)		法律実務基礎科目		基礎法学・隣接科目		展開・先端科目	
	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5
1.北海道大学	94	95	86	88	32	32	26	26	12	14	4	4	12	12
2.東北大学	96	96	92	92	30	30	28	28	14	14	4	4	16	16
3.筑波大学	93	93	93	93	38	38	24	24	14	14	4	4	13	13
4.千葉大学	95	95	84	84	38	38	20	20	10	10	4	4	12	12
5.東京大学	93	93	80	80	30	30	24	24	10	10	4	4	12	12
6.一橋大学	95	93	95	93	38	38	22	22	12	12	7	7	16	14
7.金沢大学	104	98	92	92	42	42	24	24	10	10	4	4	12	12
8.名古屋大学	98	98	94	94	32	32	30	30	12	12	4	4	16	16
9.京都大学	96	96	82	84	28	30	28	28	10	10	4	4	12	12
10.大阪大学	98	98	88	88	34	34	24	24	14	14	4	4	12	12
11.神戸大学	100	100	88	94	34	37	28	29	10	12	4	4	12	12
12.岡山大学	97	97	77	85	34	34	24	24	11	11	4	4	4	12
13.広島大学	103	99	99	95	31	30	37	34	10	10	9	9	12	12
14.九州大学	96	96	94	92	32	32	32	32	14	12	4	4	12	12
15.琉球大学	94	94	93	93	37	37	24	24	10	10	4	4	18	18
16.東京都立大学	97	97	84	84	32	32	26	26	10	10	4	4	12	12
17.大阪公立大学	97	97	87	87	37	37	20	20	12	12	4	4	14	14

※単位数が増加しているものは赤字、減少しているものは青字。

(単位：単位)

3. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

(1) 修了要件単位数、各科目群の最低限必要な修得単位数②

在学中受験対応前 (R2) : 「令和2年度入学カリキュラム (令和2年度入学の未修者、令和3年度入学の既修者に適用)」

在学中受験対応後 (R5) : 「令和5年度入学カリキュラム (令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用)」

大学名	修了要件		各科目群											
			計		法律基本科目 (基礎)		法律基本科目 (応用)		法律実務基礎科目		基礎法学・隣接科目		展開・先端科目	
	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5
18.学習院大学	105	100	98	92	36	34	32	32	10	10	4	4	16	12
19.慶應義塾大学	100	94	85	82	32	32	27	24	10	10	4	4	12	12
20.上智大学	101	100	96	95	30	32	37	34	13	13	4	4	12	12
21.専修大学	108	108	96	96	38	38	30	30	12	12	4	4	12	12
22.創価大学	103	98	96	93	37	35	31	30	10	10	4	4	14	14
23.中央大学	96	93	94	82	34	31	27	25	10	10	6	4	17	12
24.日本大学	94	96	88	90	28	30	32	32	12	12	4	4	12	12
25.法政大学	102	102	96	98	34	34	30	32	12	12	4	6	16	14
26.明治大学	103	96	86	90	42	38	18	26	10	10	4	4	12	12
27.早稲田大学	102	93	82	88	30	30	38	32	10	10	4	4	※1	12
28.愛知大学	108	108	98	98	44	44	28	28	10	10	4	4	12	12
29.南山大学	102	102	86	86	38	38	18	18	14	14	4	4	12	12
30.同志社大学	96	96	85	85	30	30	27	27	10	10	6	6	12	12
31.立命館大学	98	98	94	94	36	36	24	24	12	12	6	6	16	16
32.関西大学	100	100	94	94	34	34	26	26	12	12	6	6	16	16
33.関西学院大学	100	100	98	98	40	40	24	24	12	12	6	6	16	16
34.福岡大学	98	98	89	89	44	44	18	18	11	11	4	4	12	12
平均	98.9	97.6	90.3	90.2	34.9	34.8	26.7	26.5	11.3	11.4	4.5	4.5	13.2	13.1

※単位数が増加しているものは赤字、減少しているものは青字。

※1 法律実務基礎科目、基礎法学・隣接科目及び展開・先端科目の合計で34単位以上

(単位：単位)

3. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

(2) 履修登録単位数の上限

在学中受験対応前 (R2) : 「令和2年度入学カリキュラム (令和2年度入学の未修者、令和3年度入学の既修者に適用)」

在学中受験対応後 (R5) : 「令和5年度入学カリキュラム (令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用)」

大学名	1年次		2年次 (既修1年目)		3年次 (既修2年目)	
	R2	R5	R2	R5	R2	R5
1.北海道大学	36	36	36	36	44	44
2.東北大学	32	32	36	36[44]	44	44
3.筑波大学	36	36	36	40	44	44
4.千葉大学	36	36	36	36	44	44
5.東京大学	34	34	36	36[42]	44	44
6.一橋大学	33	33	36	36	40	36
7.金沢大学	42	42	36	36[44]	44	44
8.名古屋大学	38	38	36	36	44	44
9.京都大学	36	36	36	38	44	44
10.大阪大学	40	40	36	36	40	40
11.神戸大学	40	37	36	36[38]	44	44
12.岡山大学	40	40	36	36	42	42
13.広島大学	36	36	37	37	44	44
14.九州大学	38	38	36	36	40	40
15.琉球大学	38	38	36	36	44	44
16.東京都立大学	38	40	42(40)	38[44]	44	44
17.大阪公立大学	39	39	36	44	38	44

大学名	1年次		2年次 (既修1年目)		3年次 (既修2年目)	
	R2	R5	R2	R5	R2	R5
18.学習院大学	34	36	36	36	44	44
19.慶應義塾大学	36	36	36	36[44]	44	44
20.上智大学	36	36	36	36[44]	44	44
21.専修大学	39	39	38	38	44	44
22.創価大学	44	44	36	36[44]	44	44
23.中央大学	38	36	36	36	42	44
24.日本大学	36	36	36	36	44	44
25.法政大学	36	36	36	36	44	44
26.明治大学	42	38	36(40)	36(44)[44]	44	44
27.早稲田大学	36	36	36	36	44	44
28.愛知大学	44	44	36	36	36	36
29.南山大学	36	36	38	38	28	28
30.同志社大学	36	36	36	36[44]	44	44
31.立命館大学	37	37	36(38)	36(38)[44]	44	44
32.関西大学	36	36[44]	36	36[44]	44	44
33.関西学院大学	42	42	36	36[40]	44	44
34.福岡大学	36[40]	36[40]	36[42]	36[44]	36[44]	36[44]
増加	3校		17校		2校	
うち[]が増加	1校		14校		0校	
減少	3校		1校		1校	

※単位数が増加しているものは赤字、減少しているものは青字。

()は未修者の場合、[]は法科大学院が認めた者 (例：法曹コース修了者) の場合を示す。

※R元年10月の専門職大学院設置基準 (平成十五年文部科学省令第十六号) の改正により、R4年度より、法曹コース修了者等について、履修登録単位数の上限を44単位まで拡大することが可能である旨が規定された。なお、従来より、1・2年次で法律基本科目の単位数を増加する場合、又は3年次については、44単位を上限とする運用が認められている。

(単位：単位)

専門職大学院設置基準 (平成十五年文部科学省令第十六号) (抜粋)

(法科大学院の履修科目の登録の上限)

第二十条の八 法科大学院の学生が履修科目として登録することができる単位数の上限は、一年につき三十六単位を標準として法科大学院が定めるものとする。

2 法科大学院は、その定めるところにより、認定連携法曹基礎課程 (当該法科大学院以外の法科大学院のみと認定法曹養成連携協定を締結している大学の課程を含む。第二十二條第三項及び第二十五條第四項において同じ。) を修了して当該法科大学院に入学した者その他登録した履修科目の単位を当該法科大学院が定めた基準に照らして優れた成績をもって修得することが見込まれる者として当該法科大学院が認める学生については、一年につき四十四単位まで履修科目として登録を認めることができる。

3. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

(3) 学事暦

在学中受験対応前 (R2) : 「令和2年度入学カリキュラム (令和2年度入学の未修者、令和3年度入学の既修者に適用)」

在学中受験対応後 (R5) : 「令和5年度入学カリキュラム (令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用)」

大学名	1年次		2年次 (既修1年目)		3年次 (既修2年目)	
	R2	R5	R2	R5	R2	R5
1.北海道大学	通年クォーター	通年クォーター	前/後	前/後	前/後	前/後
2.東北大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
3.筑波大学	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター
4.千葉大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
5.東京大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後 (※)
6.一橋大学	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター
7.金沢大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
8.名古屋大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後 (※)
9.京都大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
10.大阪大学	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)
11.神戸大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
12.岡山大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
13.広島大学	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター
14.九州大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後 (※)
15.琉球大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
16.東京都立大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
17.大阪公立大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後

大学名	1年次		2年次 (既修1年目)		3年次 (既修2年目)	
	R2	R5	R2	R5	R2	R5
18.学習院大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
19.慶應義塾大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後 (※)
20.上智大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
21.専修大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
22.創価大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
23.中央大学	前/後	前/後	前/後	前/後 (※)	前/後	前/後 (※)
24.日本大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
25.法政大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
26.明治大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
27.早稲田大学	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)
28.愛知大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
29.南山大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
30.同志社大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
31.立命館大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
32.関西大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
33.関西学院大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
34.福岡大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後

「前/後」=前期/後期制、「通年クォーター」=通年クォーター制

※ 前期/後期制を基礎としつつ、一部の科目はクォーター制

3. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

(4) 3年次前期（クォーター制の場合は第2クォーター）の期末試験の実施時期

在学中受験対応前（R2）：「令和2年度入学カリキュラム（令和2年度入学の未修者、令和3年度入学の既修者に適用）」
⇒ 令和4年度3年次前期

在学中受験対応後（R5）：「令和5年度入学カリキュラム（令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用）」
⇒ 令和7年度3年次前期（予定）

大学名	R2	R5	司法試験の前か後か
1.北海道大学	8月上旬～中旬	8月上旬～中旬	後
2.東北大学	8月上旬	8月上旬	後
3.筑波大学	6月末、8月中旬、9月末	6月末、8月中旬、9月末	前後
4.千葉大学	8月下旬	8月上旬	後
5.東京大学	7月中旬～8月上旬	7月中旬～8月上旬	後
6.一橋大学	7月下旬	7月下旬	後
7.金沢大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後
8.名古屋大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後
9.京都大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後
10.大阪大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後
11.神戸大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後
12.岡山大学	8月上旬	8月上旬	後
13.広島大学	8月上旬～中旬	8月上旬～中旬	後
14.九州大学	7月下旬～8月上旬	(一部6月中旬) 8月上旬	前後
15.琉球大学	7月下旬～8月上旬	8月上旬	後
16.東京都立大学	7月下旬	7月下旬	後
17.大阪公立大学	8月上旬	7月下旬～8月上旬	後

大学名	R2	R5	司法試験の前か後か
18.学習院大学	7月中旬～下旬	7月下旬	後
19.慶應義塾大学	7月下旬	必修6月上旬 選択7月下旬	前後
20.上智大学	7月下旬	7月下旬	後
21.専修大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後
22.創価大学	7月下旬	法律基本科目6月上旬 その他7月下旬	前後
23.中央大学	7月下旬～8月上旬	(一部5月下旬) 7月下旬～8月上旬	前後
24.日本大学	7月中旬～下旬	7月下旬～8月上旬	後
25.法政大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後
26.明治大学	7月下旬	7月下旬～8月上旬	後
27.早稲田大学	7月下旬	7月下旬	後
28.愛知大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後
29.南山大学	7月下旬	7月下旬	後
30.同志社大学	7月下旬～8月中旬	7月下旬～8月上旬	後
31.立命館大学	7月下旬	7月下旬	後
32.関西大学	7月下旬	7月下旬	後
33.関西学院大学	7月下旬	7月下旬	後
34.福岡大学	7月下旬	7月下旬～8月上旬	後

3. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

(5) 3年次前期（クォーター制の場合は第2クォーター）の必修科目の配置①

在学中受験対応前（R2）：「令和2年度入学カリキュラム（令和2年度入学の未修者、令和3年度入学の既修者に適用）」
⇒ 令和4年度3年次前期

在学中受験対応後（R5）：「令和5年度入学カリキュラム（令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用）」
⇒ 令和7年度3年次前期（予定）

大学名	必修科目の配置の有無		各科目群											
			計		法律基本科目（基礎）		法律基本科目（応用）		法律実務基礎科目		基礎法学・隣接科目		展開・先端科目	
	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5
1.北海道大学	○	○	12	6	0	0	4	4	8	2	0	0	0	0
2.東北大学	○	×	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
3.筑波大学	○	○	5	1	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0
4.千葉大学	○	○	12	6	0	0	6	0	6	6	0	0	0	0
5.東京大学	○	○	6	4	0	0	6	4	0	0	0	0	0	0
6.一橋大学	○	○	18	15	0	0	3	4	5	3	0	0	10	8
7.金沢大学	○	○	10	6	0	0	8	4	2	2	0	0	0	0
8.名古屋大学	○	○	4	4	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0
9.京都大学	○	○	10	6	0	0	10	6	0	0	0	0	0	0
10.大阪大学	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11.神戸大学	○	○	2	3	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0
12.岡山大学	○	○	5	3	0	0	2	0	3	3	0	0	0	0
13.広島大学	○	○	7	4	0	0	3	0	4	4	0	0	0	0
14.九州大学	○	○	11	11	0	0	6	6	5	5	0	0	0	0
15.琉球大学	○	○	3	3	0	0	2	2	1	1	0	0	0	0
16.東京都立大学	○	×	8	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0
17.大阪公立大学	○	○	4	4	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0

※単位数が増加しているものは赤字、減少しているものは青字。
()は選択必修

(単位：単位)

3. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

(5) 3年次前期（クォーター制の場合は第2クォーター）の必修科目の配置②

在学中受験対応前（R2）：「令和2年度入学カリキュラム（令和2年度入学の未修者、令和3年度入学の既修者に適用）」
⇒ 令和4年度3年次前期

在学中受験対応後（R5）：「令和5年度入学カリキュラム（令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用）」
⇒ 令和7年度3年次前期（予定）

大学名	必修科目の配置の有無		各科目群											
			計		法律基本科目（基礎）		法律基本科目（応用）		法律実務基礎科目		基礎法学・隣接科目		展開・先端科目	
	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5	R2	R5
18.学習院大学	○	○	12	12	0	0	6	6	6	6	0	0	0	0
19.慶應義塾大学	○	×	13	0	0	0	8	0	5	0	0	0	0	0
20.上智大学	○	○	8	1	0	0	6	1	2	0	0	0	0	0
21.専修大学	○	○	12	未定	0	0	6	未定	6	未定	0	0	0	0
22.創価大学	○	○	14	3	0	0	8	3	6	0	0	0	0	0
23.中央大学	○	×	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0
24.日本大学	○	○	6	4	0	0	6	4	0	0	0	0	0	0
25.法政大学	○	○	4	3	0	0	2	3	2	0	0	0	0	0
26.明治大学	○	○	5	3	1	0	3	3	1	0	0	0	0	0
27.早稲田大学	○	○	8(10)	2(4)	0	0	6	0	2(4)	2(4)	0	0	0	0
28.愛知大学	○	○	8	8	0	0	6	6	2	2	0	0	0	0
29.南山大学	○	○	10	10	0	0	4	4	6	6	0	0	0	0
30.同志社大学	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31.立命館大学	○	○	8	8	0	0	6	6	2	2	0	0	0	0
32.関西大学	○	○	4	4	0	0	2	2	2	2	0	0	0	0
33.関西学院大学	○	○	2	2	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0
34.福岡大学	○	○	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0
配置あり/平均	32校	28校	7.1	4.3	0.0	0.0	4.2	2.2	2.6	1.7	0.0	0.0	0.3	0.2

※単位数が増加しているものは赤字、減少しているものは青字。
()は2年次までの修得状況により異なるもの

(単位：単位)

4. 在学中受験を踏まえた工夫や 配慮等について

※在学中受験を踏まえた工夫や配慮等に関し、在学中受験の導入以前から実施している工夫や配慮等は対象から除外。

4. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(1) 在学中受験が始まることを踏まえた工夫や配慮

在学中受験が始まることを踏まえ、各項目で何らかの工夫や配慮を行っているか、行っている場合はいつのカリキュラムから変更したか

R3：「令和3年度入学カリキュラム（令和3年度入学の未修者、令和4年度入学の既修者に適用）」

R4：「令和4年度入学カリキュラム（令和4年度入学の未修者、令和5年度入学の既修者に適用）」

R5：「令和5年度入学カリキュラム（令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用）」

括弧付きの場合は、入学カリキュラムに関係なく、当該年度在籍者に適用

大学名	修了要件 単位数	各科目群の 最低限修得が 必要な単位数	履修登録 単位数の上限	学事暦	開講日	期末試験の 実施時期	授業科目の 配置	授業時間の 長さ・授業回数	左記以外
1.北海道大学	-	-	-	-	R3	-	R3	-	-
2.東北大学	-	-	R3	-	R4	-	R4	-	R3
3.筑波大学	-	-	R4	-	-	-	R4	R5	-
4.千葉大学	-	-	-	-	-	-	R4	-	(R5)
5.東京大学	-	-	(R4)	-	(R5)	-	(R4)	-	(R5)
6.一橋大学	-	R3	-	-	R5	-	R3	-	-
7.金沢大学	R3	-	R3	-	-	(R4)	R3	-	-
8.名古屋大学	-	-	-	-	R3	R3	R3	-	-
9.京都大学	-	R3	R3	-	-	-	R3	R3	-
10.大阪大学	-	-	-	-	-	-	R4	R4	-
11.神戸大学	-	-	R4	-	(R5)	-	R4	R4	(R5)
12.岡山大学	-	R3	-	-	-	-	R3	-	R3
13.広島大学	R5	R5	-	-	R5	(R5)	-	-	-
14.九州大学	-	R5	-	-	R5	R5	R5	-	-
15.琉球大学	-	-	-	-	R3	-	R3	-	R5
16.東京都立大学	-	-	R3	-	R3	R3	R3	R3	-
17.大阪公立大学	-	-	R4	-	R5	-	-	-	R4

4. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(1) 在学中受験が始まることを踏まえた工夫や配慮

在学中受験が始まることを踏まえ、各項目で何らかの工夫や配慮を行っているか、行っている場合はいつのカリキュラムから変更したか

R3：「令和3年度入学カリキュラム（令和3年度入学の未修者、令和4年度入学の既修者に適用）」

R4：「令和4年度入学カリキュラム（令和4年度入学の未修者、令和5年度入学の既修者に適用）」

R5：「令和5年度入学カリキュラム（令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用）」

括弧付きの場合は、入学カリキュラムに関係なく、当該年度在籍者に適用

大学名	修了要件 単位数	各科目群の 最低限修得が 必要な単位数	履修登録 単位数の上限	学事暦	開講日	期末試験の 実施時期	授業科目の 配置	授業時間の 長さ・授業回数	左記以外
18.学習院大学	R3	R3	R3	-	-	-	-	-	-
19.慶應義塾大学	R3	R3	-	-	R3	R3	R3	-	-
20.上智大学	R3	R3	R3	-	-	-	R3	-	-
21.専修大学	-	-	-	-	-	-	(R5)	-	-
22.創価大学	R3	R3	R3	-	-	R3	R3	R3	-
23.中央大学	R3	R3	R3	-	R5	R5	R5	-	-
24.日本大学	-	-	-	-	(R5)	(R5)	(R4)	-	-
25.法政大学	-	-	-	-	-	-	R3	-	-
26.明治大学	R5	R5	-	-	R5	R5	R5	-	-
27.早稲田大学	R3	R3	-	-	R3	-	R3	R3	-
28.愛知大学	-	R3	R3	-	-	-	R3	-	-
29.南山大学	-	-	-	-	-	-	R4	-	R4
30.同志社大学	-	-	R4	-	-	-	R4	-	-
31.立命館大学	-	-	R3	-	(R5)	-	-	-	R3
32.関西大学	-	-	R3	-	R5	-	R4	-	-
33.関西学院大学	-	-	R5	-	-	-	-	-	-
34.福岡大学	-	-	R3	-	-	-	R3	-	-
変更あり	9	13	18	0	18	10	29	7	9
変更なし	25	21	16	34	16	24	5	27	25
変更ありの割合	26.5%	38.2%	52.9%	0.0%	52.9%	29.4%	85.3%	20.6%	26.5%

4. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(1) 在学中受験が始まることを踏まえた工夫や配慮の例

<修了要件単位数>

○学生の授業負担軽減の観点から修了要件単位数を削減（金沢、広島、学習院、慶應義塾、創価、中央、明治、早稲田）

<各科目群の最低限修得が必要な単位数>

○学生の負担軽減のため、一部の科目群の最低限修得が必要な単位数を削減（広島、慶應義塾、学習院、創価）

○学生が柔軟に科目を選択できるようにするため、一部の科目群の最低限修得が必要な単位数を削減し、修了要件を満たすために科目群を問わず修得が必要な単位数（修了要件単位数と各科目群の最低限修得が必要な単位数の合計の差分）を増加した。（九州、中央）

<履修登録単位数の上限>

○在学中受験資格取得を可能とすることなどを目的とし、法科大学院が認める者について、未修2年次（既修1年目）の履修登録単位数の上限を引き上げ。（東北、東京、金沢、神戸、東京都立、大阪公立、上智、明治、創価、同志社、立命館、関西、関西学院、福岡）

○3年次の履修登録単位数の上限を引き上げ、司法試験後に修了要件となる科目を多く履修できるようにした。（中央）

<開講日>

○2学期制を前提としつつも、3年次前期の一部の科目について、司法試験前に授業が終わるよう、開講頻度等を工夫（例：週1回開講から週2回開講に変更など）（東京、名古屋、九州、慶應義塾、中央）

○3年次前期の一部の科目について、司法試験前に授業が終わるよう、授業開始日を早めた。（神戸、一橋）

○司法試験期間に授業を開講しないよう措置（例：授業実施週から除外、司法試験期間中の3年次の授業は休講とし、別日に開講）。（北海道、東北、神戸、広島、琉球、東京都立、大阪公立、学習院、中央、日本、明治、早稲田、立命館、関西）

4. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(1) 在学中受験が始まることを踏まえた工夫や配慮

<期末試験の実施時期>

- 3年次前期の一部の科目について、開講頻度等を工夫し、司法試験前（5月下旬、6月上中旬）に期末試験を実施（名古屋、九州、慶應義塾、創価、中央）
- 司法試験前に前期の授業を終了し、司法試験後に期末試験を実施。授業期間と期末試験の間に2週間程度の期間（補講・試験準備期間）を設けた。（東京都立）
- 司法試験期間に授業を開講しないことから、定期試験の日程を後ろ倒しにした。（日本、明治）

<授業の配置>

- 在学中受験の所定科目単位を未修2年次（既修1年目）までに修得できるよう、授業科目の配当年次の変更（例：未修3年次→未修2年次）や配当年次の拡大（例：未修3年次→未修2年次・3年次）等を実施。（筑波、千葉、一橋、金沢、京都、大阪、神戸、岡山、東京都立、慶應義塾、上智、専修、創価、日本、法政、南山、同志社、関西、福岡）
- 在学中受験をする学生の負担軽減（や司法修習との円滑な接続）のため、
 - ・一部の法律実務基礎科目を3年次前期から3年次後期に配置変更（北海道、大阪、琉球、東京都立、慶應義塾、創価、明治、早稲田、同志社、福岡）
 - ・一部の展開・先端科目（司法試験選択科目を除く）を3年次前期から3年次後期に配置変更（名古屋、創価）
 - ・必修科目を全て3年次前期から3年次後期に配置変更（東北）
- 在学中受験を予定している学生が、2年次までに多くの単位を修得できるよう、一部の授業科目の配当年次を拡大（例：未修3年次→未修2年次・3年次）（東北、大阪公立、立命館）

4. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(1) 在学中受験が始まることを踏まえた工夫や配慮

<授業時間の長さ・授業回数>

- 1回の授業時間を延ばした上で授業回数を削減(大阪、東京都立)

<その他>

- 3年次のエクスターンシップの研修期間を司法試験前から司法試験後に変更（千葉）
- 司法試験期間中となる授業日について、休講として別に補講を行う、オンデマンド方式で実施するなど、司法試験受験により出席できないことによる不利益が生じないような措置を実施（東京）
- 在学中受験に向けた準備をする学生への配慮として、3年次前期は週3日のみ授業を入れるだけでも修了可能となるよう時間割を組んでいる（神戸）
- 論述論力を中心に専門的学識の応用能力を涵養するため、未修者3年次（既修者2年目）に選択必修科目として、既存の総合演習科目2科目4単位を再編し、公法・民事法・刑事法3系の応用演習3科目6単位を開設（岡山）
- 3年次配当科目（選択科目含む）の担当教員に対し、7月1日から司法試験終了までの間の課題の出題等について配慮を要請（琉球）

4. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(2-1) 在学中受験を希望しない学生に対するカリキュラム上の工夫や配慮

- 3年次前期も3年生向け配当科目を開講し、在学中受験をしない学生の履修スケジュールに空白期間が生じないように配慮(東北、中央)
- 3年次後期に修了後受験を予定する学生を対象とした演習科目を設置することで継続的なフォローを実施(一橋)
- 在学中受験を希望しない学生に対する個別指導として、司法試験前後において選択必修科目としてアウトプット系の演習科目を設置し、それら科目の成績評価を基に個別面談を実施し、各学生の3年次後期開講科目の履修が効果的なものになるよう指導(広島)
- 在学中受験を予定していない学生が未修2年次(既修1年目)に法律基本科目の履修に重点を置くことができるよう、カリキュラム自体は全入学者が在学中受験可能となるように設計しつつも、司法試験選択科目を未修3年次(既修2年目)においても履修できることとしている(東京都立)
- 選択必修科目として、公法・民事法・刑事法の法律基本科目を開講して、春学期第2クォーターでその履修を可能にしている。(慶應義塾)
- 授業科目の一部について、在学中受験を希望する学生とそれ以外の学生でクラス分けを行い、学生の習熟度に応じた教育内容となるよう工夫(上智)
- 未修者に対し、2年次における学習負担を緩和して消化不良を回避することを目的として、2年次必修科目の一部を3年次に繰り延べることができる「未修者2年次必修科目履修制度」を希望する学生に適用(早稲田)
- 本法科大学院は未修者が中心であり、未修者のために工夫されたカリキュラムとなっているので、そのカリキュラム方針を崩すことなく、「司法試験在学中受験プログラム」の導入によって、在学中受験の要望にも応えられるよう工夫(福岡)

4. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(2-2) 在学中受験を希望しない学生への履修指導の方針、工夫や配慮について

- 未修者2年次（既修者1年目）における展開・先端科目の司法試験選択科目の履修について、
 - ・ 司法試験選択科目4単位の履修に代えて、後期に実務基礎科目群の2科目4単位を履修することを指導（岡山）
 - ・ 無理に当該年次で履修する必要はない旨指導（広島）
 - ・ 司法試験選択科目よりも、答案や法律文書に係る書く力を養うことを主な目的とした授業科目「法学演習」の履修を推奨（学習院）
- 教員との個別面談、履修相談会等を通じて意見交換及び指導を実施（大阪）
- 在学中受験をする・しないを個人の判断に委ね、どちらの選択をしても大学としてサポートすることを入学前ガイダンス、入学時のガイダンス等の機会に繰り返し学生に説明。また、履修相談会やその他の個別相談の機会に、修了後受験に向けた履修計画・学習計画について助言（東京都立）
- 在学生ガイダンスおよび新入生ガイダンスにおいて、学生全員に在学中受験について説明を行う。（南山）
- 学習ロードマップ（各学年、各学期ごとの到達目標）を作成・公開し、学生が自身の実力がわかるよう工夫（関西学院）

4. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(3) 在学中受験が始まることを踏まえた学生指導の方針、工夫や配慮

<3年次の履修登録に係る指導>

- ガイダンス、オリエンテーション、個別相談等を通じた指導（筑波、名古屋、東京都立、早稲田、立命館）
- 在学中受験をする場合は、3年次前期に開講される科目（変則的な開講日を設定する科目は除く）について履修を控えることを推奨（東北）
- 3年次前期に履修する科目を必修科目に抑え、司法試験に向けての自主学習の時間を確保できるように指導（愛知）
- 在学中受験者にとっては司法試験後にあたり、修了後受験者にとっては司法試験まで少し時間のある3年次後期に、法律実務基礎科目（選択科目）を積極的に履修するよう指導（東京都立）
- 在学中受験を目指す者向けの科目（選択必修またはクラス分け）が設定されているので、その科目を履修できることを伝え、履修を勧奨（上智）
- 本学独自の「特別演習」（思考力・論理力・表現力を訓練する少人数演習）を履修するよう促す（関西学院）
- 「司法試験在学中受験プログラム」履修生については、司法試験の勉学に役立つ演習科目の履修を推奨。また、選択科目については、どうしても履修したい科目以外は後期に履修するよう助言（福岡）

4. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(3) 在学中受験が始まることを踏まえた学生指導の方針、工夫や配慮

<司法試験後、合格発表前の工夫>

- ガイダンス、個別相談等を通じた指導（上智、中央）
- 司法試験後、受験者の意見交換会の実施（明治）
- 司法試験に合格しても修了しなければその先（司法修習）には進めないことを周知し、後期に開講されている必修科目の単位を確実に取得できるよう指導（東北）
- 修了要件を得るための選択科目や法律実務基礎科目の必修科目の履修に力を注ぐ一方で、司法試験受験科目についても力を落とさないため学修を継続するよう指導（福岡）
- 学修がおろそかにならないよう、実務法曹としての活動を具体的にイメージさせるための説明会等の取組を実施し、後期から始まる実務系科目の授業内容と有機的な連携を図る（一橋）
- 就職情報説明会を開催。法曹三者のみならず、あらゆる業界での働き方について幅広く紹介、相談を行う（早稲田）

4. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(3) 在学中受験が始まることを踏まえた学生指導の方針、工夫や配慮

<合格発表後の学生指導>

- 合格した学生には、引き続き修了、さらにはその後の司法修習に向けて学修を進めるよう指導。合格できなかった学生には、試験の結果を振り返り反省点を洗い出すとともに、気持ちを切り替えて次年度以降の受験の準備を進めることができるよう指導・助言（東北）
- 合格した学生に対してはモチベーションを低下させないよう実務法曹として必要な能力を身に着けることの必要性を説いていく。合格しなかった学生に対してはフォローアップ科目（1単位）を設けている（一橋）
- 個別面談を実施し、司法試験に合格しても3年次の必修単位を取得できないと修了できなくなることを改めて確認し、継続的学習を促す（愛知）
- 気を緩めることなく、修了要件を得るための選択科目や法律実務基礎科目の必修科目の学修に力を注ぐように指導（福岡）
- 従来から合格者に対して、司法修習に関する注意事項等を実務家教員から指導する場を設けており、在学中受験の合格者についても参加を認める予定。不合格者については、担任、演習科目担当者からフォローを行う予定（上智）
- 実務家による司法修習前セミナーを開催。司法研修所に入所前にスムーズに研修に入れるよう事前指導を行う（早稲田）

<上記以外の学生指導>

- 半期ごとに在学学生全員と個別面談を行い、学修及び生活の状況を確認するとともに授業やカリキュラム等への要望をきめ細かく聴取し、必要な対応を行っている（岡山）
- 司法試験受験前の5月に専任教員、実務講師による個別面談、学修相談の機会の提供（中央）
- 2年次生全体に対して2年次の履修登録前にガイダンスを実施し、在学中受験を希望する場合の履修上の注意事項について説明。また、2年次後期の成績発表後に、3年次に進級が確定した学生に対し在学中受験の希望を確認した上で、在学中受験を希望する学生に対して個別面談を実施し、3年次の学習計画について指導（愛知）